基調提案

第３９回　第２ブロック大会テーマ「生き方につながる美術教育」

大会研究局長　世田谷区立船橋希望中学校　岩崎　恵

変化の激しいこれからの社会において、変化を前向きに受け止め、社会や人生、生活を人間ならではの感性を働かせてより豊かなものにしたり、新しい未来の姿を構想し実現したりすることや、主体的に学び続けて自らの能力を引き出し、どのように社会や人生をよりよいものにしていくのかを考えることのできる人材の育成が求められている。

２０３０年代には現在の職業の半数がＡＩに置き換わるという試算も出ている中、ＡＩに取って代わられる時代ではなく、ＡＩを使いこなす時代に向かうため、美術科として子供たちに確実な力を身に付けさせていく必要がある。美術科教育だからこそ育てられる「自由な表現、選べる自由、認め合える個性」「ＡＩには負けない力や可能性」を引き出していきたい。人工知能がいかに進化しようとも、それが行っているのは与えられた目的の中での処理である。

一方で人間は、感性を豊かに働かせながらどのような未来を創っていくのか、どのように社会や人生をよりよいものにしていくのかという目的を自ら考えだすことができる。そして答えのない課題に対して、多様な他者と協働しながら目的に応じた納得解を見出したりできるという強みをもっている。美術科の目標は、感性と創造性を育む教科であり、「まさに人間の学習」である。これらのことから、生徒一人一人が社会の担い手として自らが課題に向き合い、判断して行動し、それぞれが思い描く未来を実現できるように、という思いを込め、今大会の全体テーマを「生き方につながる美術教育」とした。また、「生き方につながる美術教育」を実現するための手立てとして、以下の３つの分科会テーマを設定し、今後の授業に生かすことのできるよう実践を基本として研究を重ねてきた。

分科会テーマＩ　「指導と評価の一体化」

学習指導要領の改訂を受け、学習評価が「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」「学びに向かう力、人間性等」の３観点で実施されるようになってから、本年度で２年目を迎えた。学習評価については、指導したことを評価し、評価したことを指導に生かしていく「指導と評価の一体化」が強調されている。育成したい生徒の資質、能力の根本は変わらずとも、以前の４観点からの学習評価はどう変化していったのか、いかに生徒に指導内容と評価のつながりを明確に示し、資質、能力を伸ばしていくか、を課題とし、現場での検証を中心に、研究を深めた。

分科会テーマ２　「題材のアップデート」

時代の変化を前向きに受け止めることは、教師にも必要である。しかし、「Ａ表現」「Ｂ鑑賞」の指導の内容そのものを一新することだけが変化ではない。美術科の題材の中には、長く愛され多くの学校で扱われてきた価値あるものがたくさんある。時代を超えてなお用いられ続けるそれらの題材の魅力を再発見し、時代や新しい教育環境に合わせた題材へと進化させるべく、このテーマを設定し、題材の再構築の可能性を模索した。

分科会テーマ３　「ＩＣＴの有効活用」

平成２８年Ｉ２月の中央教育審議会答申から時が経ち、さらに人工知能は進み、世の中も変化と革新を続けている。コロナの影響により、ＧＩＧＡスクール構想が進み、一人一台端末の配備や高速大容量通信環境も整った今、ＩＣＴ機器の活用は、どの学校においても共通の課題である。一人一台端末を、生徒が授業で自由自在に扱いながら、表現や鑑賞の活動の中で、自己の表現に有効に、幅広く生かしてほしいという願いから、このテーマを設定した。

分科会のテーマは全て、生徒の「未来を生きる力」につながっている。美術科は、感性と創造性を育む教科であり、「まさに人間の学習」である。

本研究大会での発信が源となり、美術科とは何を学ぶ教科なのか、学んだことが生徒の人生にどうつながっているのか、といった「生き方につながる美術教育」の意義が広く協議され、各地区、各学校での美術科の授業力向上に資することができれば幸いである。